

流行ニュース

コンゴ民主共和国におけるマールブルグ病（ウイルス性出血熱）の発生

南アフリカの国立ウイルス学研究所（NIV）で実施されたウイルス学的な検査によって、新たに1例のマールブルグ出血熱患者が確定診断された。患者は30歳のDurba地区の金鉱抗夫で、2000年1月8日に発症した。1999年11月から12月にかけて、15例の感染疑い例が報告された。そのうち12例からの検体が診断のためNIVに送られた。結果は全例とも、マールブルグ出血熱ウイルスおよび他の病原体に関して陰性であった。

Ingushetia地方における結核

チェチェン共和国より紛争を逃れてきた難民の間で結核の流行の拡大が問題になっている。難民の間では、多くの人が一カ所に押し込められ十分な医薬品および医療がないことから活動性結核流行の高い危険性が危惧されている。北コーカサス地方では近年結核患者の数が増え続け、特にチェチェン共和国では活動ができないため、特に高い割合となっている。もっとも最近の調査では結核罹患率は10万人に対して65人から80人以上へと増加しているといわれており、チェチェン共和国内では更に高い罹患率が予想される。WHOではUNHCR、UNICEF及び同地方の保健医療機関と協力してこの問題の改善に乗り出している。

今週の話題：

<デンマークにおけるサルモネラ腸炎菌>

2000年1月2日に、ある家族内で44歳になる父と18歳の息子の突然死が確認された。2人は初めは腹痛・発熱・下痢などを伴う消化器症状を訴え、数日後死亡した。検死の結果、糞便・血液・心筋・髄液中などからSalmonella enteritidis FT6が検出された。Salmonella enteritidis FT6はこの家族内で同様の消化器症状を訴えている数人からも検出された。食中毒の原因は4日前に作られたケーキの材料である卵と考えられ、ケーキの残りからは $10^6$ - $10^7$ /gのSalmonella enteritidis FT6が検出された。事実、この卵の生産元の雌鳥11匹のうち、4匹からSalmonella enteritidis FT6が検出されている。Salmonella enteritidis FT6の症状はそのほとんどが一過性の消化器症状にとどまるが、時に今回のように敗血症に陥ることもある。このケースの様に激しい症状が健常人にできることはきわめてまれであるが、残ったケーキ内から検出された菌体数から考えると、死亡した患者が極めて大量の菌体を一度に摂取したことが原因ではないかと考えられる。

編集ノート：Salmonella enteritidisを主とするサルモネラ属は食中毒を起こす主要な原因菌であり、その症状の多くは一過性の下痢に留まる。しかし、まれに（3-9%）このような敗血症を引き起こし、生命に関わる。先進国はともかく、発展途上国においてはサルモネラの調査がまだまだ不十分であることを受けWHOでは先進国、途上国を含めた広いサルモネラ情報の交換を目的としたネットワーク"Global Salm-Surv"を設立した。さらにWHOではネットワークの会員のためにサルモネラを含む細菌類の監視活動のトレーニングを各地域で行う予定である。（問い合わせ：e-mail：aph@who.int.）

<中国青海省にもたらされた野生株ポリオウイルス>

1999年10月13日に野生型ポリオウイルス型による急性弛緩性麻痺が発生したことが報告された。患者は青海省Haidong県Xunhua郡Geizi区に在住のSala族の16カ月の男子で、接触のあった5人の子供のうち一人もポリオウイルス1が検出された。患者・家族とも2ヵ月以内に自分の住む郡以外に旅行した既往はなかった。ただし、この子供と家族は9月下旬にXunhua郡の主都でのSala族の祭りに参加している。患者や医療機関など同地域の集中的な調査が行われているが、ポリオウイルス野生株の広範囲におよぶ流行について証拠はまだ発見されておらず、青海省および近隣省のラボにおける監視体制

の質は一般に良好なことから考えて、ウイルスは最近輸入されたと思われる。このポリオウイルスの遺伝的解析を進めたところ、1998年から1999年にかけてインド中部及び北部で発見されたポリオウイルスに遺伝子配列が98%の相同性を示し、中国で最後に発見されたポリオウイルス（1994年）とは明らかに異なっていることが判った。この男子に海外に旅行した履歴もないことから、近辺のポリオ流行国、特にインドからポリオウイルスが持ち込まれた可能性が高いと考えられている。それを受けて青海省及びチベット自治区に広くポリオワクチンの接種を行っている。

編集ノート：この報告では中国の住民が少ない辺境でもポリオの調査が的確に行われていることを示している。さらにポリオが撲滅されたとされている地域においてもポリオの輸入感染に十分な注意をはらい続けなければならないことを示しており、ポリオが輸入感染される危険性が高い地域においてはさらに質の高いポリオの調査を行い続ける必要があると思われる。またポリオ撲滅に一層の努力をしなければならぬ。さらに政府指導者は、ポリオの予防を重要課題として取り組まなければならない。

#### < 出版紹介 >

“ International Travel and Health Vaccination requirements and health advice  
Situation as on 1 January 2000”

(108ページ、英仏、ISBN:92 4 158025 9 米 15.30ドル、注文番号：1180000)

注文書取り寄せ：Marketing and dissemination, World Health Organization, 1211 Geneva 27, Switzerlandまで。又は、Fax:+41 22 791 4857 e-mail: bookorder@who.ch.

世界各地に渡航する場合のワクチンの必要性や保健情報を掲載したガイドブックが2000年1月1日に出版された。このガイドブックは毎年1月に更新され海外に渡航する際にその国の保健衛生の状況がどのようなものであるかという情報を国別、地域別にわけて掲載している。

ここにはワクチンを摂取する事がWHOより推奨されている国、ワクチンの摂取がその国の入国に必須な国が記載されている。マラリアについては最も効果的な予防方法は蚊に噛まれないようにすることであり、マラリアの予防薬は全員に投与されるべきものではなく、薬によっては禁忌の場合もある。

#### 流行ニュースの続報

##### インフルエンザ

ドイツ、ロシア共和国、スペイン、チュニジア、ウクライナでインフルエンザの流行が見られる。特にロシア共和国においてはインフルエンザに罹患した患者より、不顕性感染の増加が見られており、今後の注意が必要である。さらに、1998年-1999年にインフルエンザが流行した国についてはWHOのFluNetに記載がある。

(大桐摩美、塚本康夫、石川雄一)